

●全国学力学習状況調査(小6)

課題の見られた問題の概要	結果
平仮名で表記されたものをローマ字で書いたり読んだりする。	43.8%
グラフを基に、分かったことを的確に書く。	52.1%
目的に応じ、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしなが読む。	53.4%
話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する。	54.8%

●児童・生徒の学力向上を図るための調査(小5)

課題の見られた問題の概要	結果
二つの資料を理解・解釈して比較し、目的に応じた文章を考えることができる。	42.4%
書きたいことが正しく伝わるように書いているかを確認することができる。	45.8%
叙述をもとに場面の様子を正確に読み取ることができる。	72.9%
指示語が指し示すものを的確に捉えることができる。	76.3%

●調査結果を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ○漢字を正しく読んだり、書いたりする力が平均を大きく上回っている。 ○目的に応じて、図と表とを関連づけて読むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題形式が記述式になると、誤答率・無回答率も高くなる。 ○表現する力(書く、話す)に課題がある。

●調査結果を踏まえて学校全体で取り組む内容

<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを、相手に伝わるよう話したり、書いたりすることができるような指導を行う。 ○文章を論理的に読み、筆者が伝えたい事や、要旨を読み取らせる。

●調査結果を踏まえた学年ごとの課題及び改善策

学年	児童の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
1年生	<ul style="list-style-type: none"> ○ひらがなを獲得し、語をまとまりとしてとらえることができるようになってきているが、確実な内容理解ができるよう指導を継続していく必要がある。 ○適切な声の大きさで話すことを身に付けていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○内容をより理解するために、動作化や写真等を活用する。 ○発表する機会を積極的に設け、話したり聞いたりする時のルールールの定着を図る。
2年生	<ul style="list-style-type: none"> ○既習の漢字を正確に書くことに課題がある。 ○発表することに抵抗が見られ、適切な音量で話すことが身に付いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ドリルや小テストを活用し、繰り返し練習し定着を図る。 ○発表の場を設け、発表に対する抵抗を減らす。
3年生	<ul style="list-style-type: none"> ○既習の漢字を正確に書くことに課題がある。 ○主語と述語がねじれていたり、句読点を適切に使えなかったりする児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ドリルや小テストを活用し、繰り返し練習し定着を図る。一人一冊国語辞典を準備しておく。 ○感想文、紹介文、説明文といった作文学習の機会を積極的に設定するとともに、モデル文を示して文章の型を身に付けさせていく。
4年生	<ul style="list-style-type: none"> ○全体の場で発表することに抵抗がある児童が多い。 ○既習の漢字を正確に書くことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話型を意識して発表をする習慣を付ける。また自信を持てるような声かけを行っていく。 ○ドリルや小テストを活用し、繰り返し練習し定着を図る。
5年生	<ul style="list-style-type: none"> ○ある事柄に焦点を当てて、様々な観点で比較関連付けて読み取る力を付けていく必要がある。 ○指示語や接続語に着目し、文と文がどのような関係でつながっているか整理していく力を付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○段落ごとに読むのではなく、段落と段落、文と文など焦点をぼって、関連付けた読み方を意識的に授業に取り入れていく。 ○文と文を、指示語や接続語を用いて、順序良く並び替えて書く機会を設けていく。
6年生	<ul style="list-style-type: none"> ○文章全体の内容や構成を的確に抑えながら、話題の中心や、書き手の考えの中心となる事柄を要旨としてまとめて書く力を十分に付けていく必要がある。 ○事実だけでなく、取材した相手から受ける印象や自分の感想や意見などにも目を向けられるように指導していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文章全体の構成をしっかり捉え、中心となる事柄を見つけ出し、それらの内容を取り上げて、要旨をまとめていくという活動を取り入れていく。 ○読み手に伝えたいことの中心を明らかにし調べた内容や取材した事柄の中から取捨選択するような活動を取り入れる。

●前年度の取組及び本校の実態を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ○全体的に学習に対する意欲が高い。 ○基礎的・基本的な読み取りの力は付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全体の場で自分の意見や考えを发表することに抵抗をもっている児童が多い。 ○既習の漢字の読み書きが十分に定着していない。

●本校の実態を踏まえた学年ごとの課題及び改善策

学年	児童の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
1年生	<ul style="list-style-type: none"> ○ひらがなの学習に意欲的に取り組んだ。また文字を習得したことで、自力で読書を楽しもうとする態度が見られる。 ○正しい鉛筆の持ち方を身に付けている児童が少なく、継続して指導をしていく必要がある。 ○家庭学習で、継続的に音読をすることで、言葉をまとまりとして読むことができるようになってきている。 ○発言をしたり、人前で発表をしたりすることに抵抗のある児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○読書週間や旬間を活用し、読み聞かせやブックトークなどを行い、読書の習慣化を図る。 ○国語の時間に限らず、書く活動をする際には、正しい鉛筆の持ち方を意識させるよう、声かけをする。 ○音読は家庭学習と連携する。 ○話したり、聞いたりするときのルール of 定着を図る。 ○自分の考えをきちんと伝えられるように、スピーチを含め発表の機会を設定していく。
2年生	<ul style="list-style-type: none"> ○新出漢字が多く、また画数が多い漢字も多い為、覚え切れていない児童がいる。 ○発表に抵抗がある児童がいる。また、適切は声の大きさを話すが身に付いていない児童がいる。 ○大切なことを聞き逃す児童がいる。 ○言葉と言葉をつなぐ、助詞の使い方に課題があり、相手に伝わる文書を書くことができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ドリルを使って繰り返し練習をし、また、定着を確かめるために漢字テストを行う。 ○様々な場で発表する機会を設け、発表への抵抗を少なくする。 ○聞くときには、相手の顔を見て聞くよう指導を徹底する。 ○短い文章を書く機会を設け、助詞の使い方の定着を図る。
3年生	<ul style="list-style-type: none"> ○語彙を増やす必要がある。 ○接続語の使い方、文末表現、句読点の正しい打ち方を指導し、正しく文章を書く力を身に付けさせる。 ○作文の中で既習の漢字を適切に書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各単元における言語事項を重点的に指導するとともに、国語辞典を使用して新出語句を調べる活動を設定することで、言語技能を高め、語彙を増やす。 ○200字作文や短作文に定期的に取り組み、その中で接続語の適切な使い方や効果的な表現技法を適宜指導し、書く力の向上を図る。モデル文を掲示して書き方を具体的に理解させる。 ○漢字ミニテストに定期的に取り組むとともに、作文指導において適切な漢字を書くよう添削する。
4年生	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に自分の考えを友達に伝えようとする児童が多いが、友達の考えと比較して考えを发表することが難しい。 ○誤字が多かったり、既習漢字が書けなかったり、難しい漢字も多くなり、新出漢字の習得に大きな差が見られる。 ○登場人物の気持ちや筆者の考えを読み取る力はあるが、それが書くことにつながらない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己解決の時間のあとに、ペアで発表する時間、友達の考えを聞く時間を設ける。 ○宿題や家庭学習で繰り返し練習させ、漢字テストの再テストを行い、確実に習得させる。 ○読み物に対して感想をもつ習慣を付ける。
5年生	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に本を読み、国語の学習に意欲的に取り組んでいる。 ○内容や要旨を捉えながら読む力が弱い。 ○書いたり話したりすることに苦手意識をもっている児童が多く、目的や意図に応じて表現することに課題がある。 ○漢字、敬語などの言葉遣いなど、言語事項に関する理解が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを行う。 ○自分の考えを表現する場、ペアやグループでの話し合いの場を、意図的・計画的に設ける。 ○書く内容や方法を明確に示し、互いの文章を読んでよさを認め合ったり、アドバイスをし合ったりする機会を設ける。 ○家庭学習の習慣化を促すとともに、小テスト等を活用して漢字の定着を図る。
6年生	<ul style="list-style-type: none"> ○文章全体の内容や構成を読む力や要旨をまとめる力に課題がある児童が多い。 ○話題の中心や書き手の伝えたいことを読み取ることに課題がある児童がいる。 ○語彙力の不足とTPOに応じて話すことが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり ○読み方、書き方を指導要領に基づいて丁寧に指導する。【要旨など】 ○話型を意識して話す場面を設定する。

●学校全体で取り組む内容

<ul style="list-style-type: none"> ○ユニバーサルデザインの視点である、焦点化、視覚化、共有化を取り入れた授業づくり。 ○全体の場で発表する場を計画的に設け、話す力、聞く力をつけていく。 ○漢字の定着、音読の継続、読書活動の推進に力を入れる。
--